トレンド

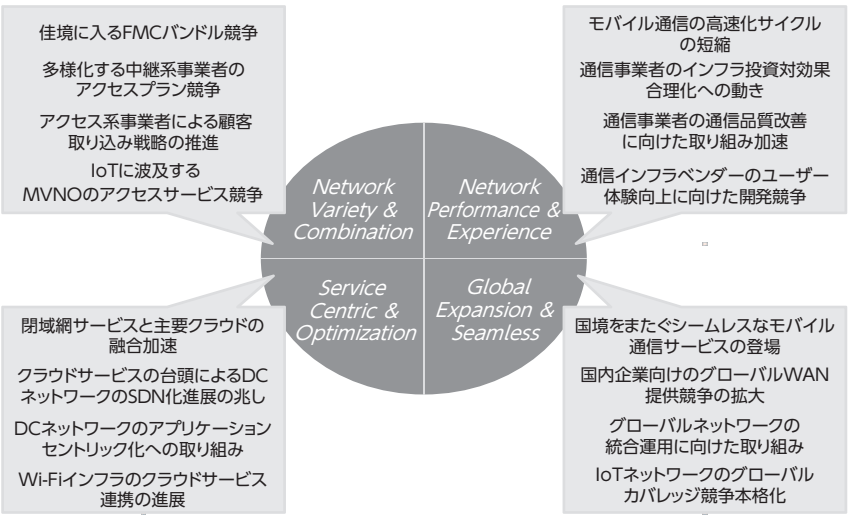
IDC Japan

国内ベンダーのマルチネットワーク戦略分析を発表

ITリソース利用形態の変革により、通信サービス／通信インフラの競争軸は大きく変化 マルチネットワーク時代には、IoTの急速な普及に伴った柔軟なネットワーク設計やユーザーのQoE情報を活用した新しいレベニューモデル確立が急務になる

IDC Japan は、国内ベンダーのマルチネットワーク戦略分析結果を発表した。今回の調査では、昨今において通信事業者と通信インフラベンダーの競争軸に変化が起きていることに着目し、そうした事業者の戦略動向と将来展望に対して提言を行っている。

国内の法人／個人における IT リソースの利用形態が十数年前と比較して劇的に変化したことに伴い、事業者の提供する通信サービスや通信インフラに求められるニーズは大きく変化してきている。IDC ではそうした中、通信事業者および通信インフラベンダーの競争は、「通信アクセスのラインナップ増強と組み合わせの多様化」、「通信性能の高度化と利用者体験の最大化」、「サービス（アプリケーション）利用に最適化された通信インフラの実現」、「グローバルシームレスな通信環境の提供」といった４つの分野で激化しつつあるとみている。本調査レポートでは、これらの４つの競争軸を、「Network Variety & Combination」、「Network Performance & Experience」、「Service Centric & Optimization」、「Global Expansion & Seamless」とした上で、それぞれの競争軸において通信事業者および通信インフラベンダーの具体的な戦略動向と将来展望に関する分析を「マルチネットワーク戦略分析」として実施している。その中で IDC では、通信事業者や通信インフラベンダーを中心とした国内事業者に対する詳細な取材結果を活用している。



マルチネットワークサービスの４つの競争軸における事業者動向

IDC Japan コミュニケーションズリサーチアナリストの鳥巣悠太氏は、マルチネットワーク時代において「IoT（Internet of Things）の急成長より、多様化する通信アクセスの種類や組み合わせに応じた柔軟なネットワーク設計、QoE（Quality of Experience）情報を API（Application Programming Interface）として OTT（Over The Top）ベンダーと共有することによるレベニューシェアモデルの確立、ICT リソースの管理／可視化などのネットワークにおけるクラウド連携機能の更なる強化、国内外でのボーダレスなネットワークプラットフォームの構築などが重要になる」と語っている。

●お問い合せ先●
IDC Japan ㈱ セールス
TEL：03-3556-4761
E-mail：jp-sales@idcjapan.co.jp
URL：http://www.idcjapan.co.jp/